

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 藤塚中 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 須田 剛

学校教育目標

学校経営の方針

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる

- (1) 自他の「いのち」を大切にする心、個性や立場を尊重する心づくり
- (2) 心身ともに安心・安全に過ごせる環境づくり
- (3) 共に学び、わかる喜びを実感させ、主体的な学習態度を養う授業づくり
- (4) 創意工夫を凝らし、生徒と教職員が協力して創り上げる学校づくり
- (5) 保護者・地域に信頼される絆づくり

今年度の重点目標

(1) 社会的な自己実現が図られるための「自己指導能力」の育成 (2) 「学びに向かう力、人間性等を涵養すること」の実現

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
自他の「いのち」を大切にする心、個性や立場を尊重する心づくり	1・2	生徒会目標でのAIUE4原則（あいさつ強化・いじめ撲滅・歌声強化・エコ）の中で、いじめ防止に向けた取組を強化し、お互いの良さを認め合う活動を行ったり、校内人権週間を設け、お互いの良さを認め合い、共有する時間を設けた。	定期的に仲間を認め合う活動を行うことにより、他者理解や認め合う心、いじめ防止につながった。	今年度の取り組みを継続していく。
心身ともに安心・安全に過ごせる環境づくり	1・2	学校生活アンケートを毎月実施したり、学期始めには教育相談アンケートを基に教育相談を実施したりした。また、避難訓練を実際の非常時に近づけるために、生徒に予告をせずに行った。	学校生活アンケートに書かれたことを、学年の職員で共有することで、個々の生徒に対応することができた。また、今年度は横浜プログラムを行い、その結果を分析し、それに基づいて各クラスに応じたアクティビティを行うことができた。予告しない避難訓練は、生徒が落ち着いて的確に行動できた。	今年度と同様に進めていく。学校生活アンケートに書かれたことの共有は今後も続け、生徒が抱えている不安や問題にすぐに対応できるようにする。また、避難訓練については、訓練のための訓練にならないよう有事のことを細かく想定し、生徒の安全を守れるよう職員体制を構築していく。
共に学び、わかる喜びを実感させ、主体的な学習態度を養う授業づくり	1・3	ICT機器を活用したり、課題解決学習や自分が調べたり考えたりしたことを説明する活動を取り入れた小集団活動を行ったりして、主体的な学習態度を養う授業づくりを行った。	生徒同士の意見共有・交換の中で自分の考えを広げたり深めたりさせることができた。また、授業のふりかえりを繰り返し行っていくことで、単元で学んだことを頭の中で整理し、次の学習目標を立てられるようになった生徒が増えてきた。	次年度、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりや学習評価について、校内研修で研究を積み重ねていく。

創意工夫を凝らし、生徒と教職員が協力して創り上げる学校づくり	2・3	生徒会活動や学校行事、学級活動などを通じて、生徒に自治的な活動を多く促した。	委員会活動や学校行事では、リーダーを中心に自分たちでよりよい活動ができるよう話し合ったり、活動したりする場面を設けることができた。また、行事では、準備や練習、本番を通して、集団のために進んで取り組ませることができた。また、生徒会が企画した全校レクなどを通し、縦割りで行う異年齢集団の活動もできた。	今年度に引き続き、生徒会活動の活性化を図り、生徒に課題意識を持たせ、生徒の手によって学校生活の改善を図れるようにしていく。
保護者・地域に信頼される絆づくり	3	学校ホームページや学校だよりで、学校の様子を地域に発信した。また、青少年健全育成会等との連携を図った。	ホームページの更新はまめにできた。学校だよりは昨年より多く月1回発行できた。また、防災訓練や年末美化清掃など、地域の活動に生徒が進んで参加できるような環境づくりを行った。	学校運営協議会と連携し、生徒が地域の活動に積極的に参加できる方法を模索していく。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
学校関係者評価委員会は3月1日に実施した。学校評価の内容と今後の取り組みについて、ご理解をいただいた。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
学校教育活動は、全職員の共通理解のもと取り組むことができた。 生徒指導面については、生活や授業のルールを守って学校生活を送っており、落ち着いて授業が展開されている。しかし、様々な理由から学校から足が遠のいていたり、教室に入れず仲間と共に活動できない生徒がいたりする。担任だけでなく、学年、教育相談コーディネーター、元気アップアシスタント、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部機関との連携を図りながら改善に努めている。 学習面では、基礎基本が身につけていなかったり、つまずきを感じたりしている生徒が見られる。学力向上や家庭学習の習慣づけにむけて指導を継続しているが、その成果は十分であるとはいえない。授業や学習会などで個別支援をするだけでなく、話し合いや討論、グループ学習など共に学び合う学習の場面を積極的に取り入れ、互いを支え合う授業づくりに努める。 本校では、外国につながりのある生徒が多いが、今後も、国際教室を中心に個々の生徒を支援する。				